

サポート通信



千代田まちづくりサポート、3年ぶりに復活!

14グループへ助成を決定!



多くの方々の再開を待ち望んでいた声を受け、2015年6月6日(土)、ちよだプラットフォームスクウェア5階で第15回千代田まちづくりサポート公開審査会が開かれた。

今回は新たに「テーマ部門」を設け、「トライアル部門」は「はじめて部門」とリニューアル。SNSをはじめ様々なルートでの広報活動が功を奏し、一般部門12グループ、テーマ部門2グループ、はじめて部門5グループの19グループの応募があった。

午前の部、司会の田熊元審査会委員の元気よい第一声で、各グループによるプレゼンテーションと質疑応答が始まった。3分という短い発表時間であるため、実力が十分発揮できないグループもあったが、すべてのグループが熱のこもった発表を無事行うことができた。

午後は審査会委員とグループとの白熱のやりとりによる審査。会長からは全グループ合格にしたい!との声もあったが、審査の結果、一般部門10グループ、テーマ部門1グループ、はじめて部門3グループの全14グループの助成が決定した。

途中、千代田区長にもかけつけて頂き、公開での審査や税金によらない助成などサポート事業への期待が述べられた。

これまで助成を受けた3回中3回とも「サポート大賞」を獲得したリーグ・ウィズ・ドリームは、新たな活動を行うため、はじめて部門よりエントリー。今回も助成対象となった。

二次審査で7票満票を取ったのは、神田暮らし探検隊、神田一八エリア振興会、On Any Sunday、NPO都市住宅とまちづくり研究会の4グループ。それぞれ、地域に密着した活動が期待される。

助成を受けた各グループは、それぞれのテーマに取組んでおり、11月28日の中間発表会を経て、来年春の発表会での成果が待たれる。



石川雅己
千代田区長

目次

【第15回助成申請グループ(発表順)】

【一般部門】(1回目)	
神保町コミュニティプラザ	2
神田暮らし探検隊	2
みんなでつくるまちづくり推進協議会	2
東京高架下軌道	3
神保町映画祭実行委員会	3
神田一八エリア振興会	3
On Any Sunday	4
ユメラボ	4
EATALK	4
チルオリンピック実行委員会	5
NPO都市住宅とまちづくり研究会	5
共立女子大学 神保町NeO	5
【テーマ部門】(1回目)	
千代田まちづくりサポーターズ・ネオ	6
Small Gathering Chiyoda	6
【はじめて部門】(1回目)	
グリーンネイバーフッド千代田を目指す会	6
トンボソリューションズ	7
リーグ・ウィズ・ドリーム	7
文人通りランチ会	7
NPO法人MEMORO「記憶の銀行」	8
審査会委員講評・総評	8~11
第15回千代田区まちづくりサポート 審査評	11
山崎理事長あいさつ	12
賛助会員一覧	12

審査会委員 紹介

会長	窪田 亜矢 東京大学大学院工学系研究科 特任教授・工学博士
副会長	新田 英理子 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長
委員	谷 真理子 千代田区青少年委員会 会長
	後藤 禎久 市井人(まちびと)・斎藤月峯に学ぶ会 会長
	江口 貴大 興産信用金庫お客様支援室 次長
	三原 久徳 千代田まちづくりサポーターズクラブ 会長
	立川 資久 千代田区 地域振興部長
	鈴木 秀人(※テーマ部門) 公益財団法人まちみらい千代田 副理事長



編集・発行:公益財団法人まちみらい千代田まちづくり推進担当

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4F TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557
http://www.chiyoda-days.jp E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp

1 〔神保町コミュニティプラザ〕 一般部門・1回目



神保町にコミュニティプラザの設立を目指してタウン誌を2006年から10年間制作。定期的なツアーガイドや「本と街の案内所」で街の案内をするコンシェルジュの運営に関わってきた。そのつながりを活かして書店、観光、グルメ情報など神保町らしい発信基地を作りたい。まず、コンシェルジュの育成。地域の学生や若い人に声をかけ月一回の街歩き勉強会とコンシェルジュ育成部隊を作る。

次に、大型観光マップを使ったマッピング・イベント。これは情報の発信だけでなく、来場者や地域の方々とコミュニケーションを通して情報の収集も行う。

次は、ガイドツアーの開催。定期的に毎週末に街歩きツアーを実施。同時に、東京デザイナー学院や日本まんが塾の学生による、神保

町「ゆるキャラグランプリ」を開催。別会場で「マップでふり返る神保町の10年史」を展示。老若男女、国内外の人に親しんでいただける街を目指している。

Q:これまでの活動と、どう違うのか?

A:「本と街の案内所」は古書店の検索中心のプロによる活動。本だけでなく、タウン情報を総合的に発信し、アマチュアとしてツアーやイベントにも力を入れたい。

Q:コンシェルジュの育成は、どういう人を対象に、何人ぐらいを考えているのか?

A:地域の大学生や専門学校生徒さんに声を掛け、20人ぐらいは育てる予定だ。

Q:「ゆるキャラ」は、今後どう根付かせ、いかに地域とつなげるつもりか?

A:既に地域でイベントをしている人達と連絡をとっている。そのつながりを広げていく。

2 〔神田暮らし探検隊〕 一般部門・1回目



地域住民も高齢化を迎え、建物も空間も変容していく。人々がつかないできたまちづくり、地域の関係や価値が失われる危機感に、今後のあり方を考える必要を痛感。情報誌「神田Zine」の制作により、地域資源の発掘、将来のまちの担い手づくりを進める。新旧住民をつないで新しい神田の魅力を見つけ直したい。

活動の第一歩は地域の住民と協働での調査。実際にまちを歩いて戦後の歴史や人々の居住意識などをインタビューする。次に「まち図鑑」の作成で、新旧の住民の暮らし方を写真や地図などで表現する。さらに「神田暮らし探検ツアー」の開催。新規住民を対象に、産業とまちの関係を見るツアーを行う。

これらの活動を雑誌「神田Zine」にまとめていく。住民の方々を呼

んで交流し、まちづくりの貴重な知恵を学び合う。昨年は神田の老舗の方のお話を聞くツアーを実施。冊子の制作はできなかったので、ぜひ実現したい。

Q:申請書には、「神田の大工さんや繊維業の人にお話を」とあるが、いつ接触を?

A:商工名鑑という資料に、1960年頃の神田の事業者の名前と住所が載っている。すでに、連絡をとり大工の方のお話を伺った。

Q:そういう人の話をどう引き出すのか?

A:一年間の「老舗ツアー」で、多くの方と知り合い、歴史に詳しい方のお話も伺えた。

Q:冊子はどういう人たちに配るのか?申請書には500冊とあるが、妥当な数か?

A:新規住民、主にマンションに住む人たちが対象。神田の大小の町会の中でも中程度は500世帯くらい。その人達、全員に配る。

3 〔みんなでつくるまちづくり推進協議会〕 一般部門・1回目



まちで見かける点字ブロックや車椅子用のトイレは使いやすいか? 不便さを設備だけで解決できるという思い込みが問題。例えば、ユニバーサル・トイレにペダル式のごみ箱が置いてあるが、車椅子の人には使えない。点字の案内板もあるが、視覚障害者の9割の人が実は点字が読めない。

高齢者、障害者、外国人各々がお互いに関わり方が分からない。高齢者や障害者が買い物をする時、店員さんに声をかけにくい。困っている人を見かけても、どうしていいかわからず、失礼になると思い遠慮してしまう。

視覚障害者の為の音声文字入力機能があるスマホ等も普及してきており、日本は優れたユニバーサルデザインのハード面はあるが、ソフト面が遅れている。ソフト面の対応基準を作りたい。例えば手話、

通訳、筆談なども大切だ。

Q:ユニバーサルデザイン勉強会の提案か?

A:まずはその専門家を招いての勉強会。次に実際に千代田区内を高齢者や障害者の方と歩いて、ハード面とソフト面での対応の課題調査。さらに音楽イベントなどを開いて具体的な人的対応などを実現していく。

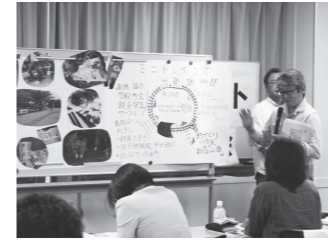
Q:以前の団体と似たような内容だと思う。ぜひその方々と合流してほしい。

A:千代田区にある企業では、障害者を多く雇用し、その方々は積極的に社会と関わっている。地元の人材を活かし共にやりたい。他のグループとの協働も考えている。

Q:すると、障害者も含めて、市民と労働者がフィールドワークの対象か?

A:特に限定はしていない。様々な方を対象にしたい。町内会の方との連携も探りたい。

4 〔東京高架下軌道(通称にここ電車)〕 一般部門・1回目



これまで、東北復興支援での宮城県、高円寺びっくり大道芸など、様々な所で子供から大人まで楽しめるミニ電車(人が乗れる最小の鉄道模型車両)を運行し、イベントや町会、学生サークルなどの方々と共にワークショップを開いてきた。

ワークショップでは路線図の作成、車両製作体験など。地面に線路(軌道)を設置し、電車が動く仕組みなどを知る楽しみもある。子供の笑顔が嬉しい。

この電車を通じて、新住民とも交流し、新たなまちづくりをしたい。神田須田町、万世橋、交通博物館のあった淡路町などで、鉄道とまちの歴史やモノづくりを学ぶ勉強会も開催していきたい。

子供達も20年経てば、大人としてまちに溶け込んでくる。子供の時の体験は思い出となり、まちへの愛着ともなる。活動の記録は広報用

冊子や映像を制作してまとめる。

Q:タイアップする団体や人々は?

A:鉄道会社の人や地元の祭り、商店街のイベントなど。今回は万世橋近辺ビル、ワテラス広場などで運行イベントを企画している。

Q:ミニ電車は所有しているのか、何台くらいあるのか? ワークショップでは何を?

A:線路と車両は団体で所有。それにカバーやテントなどを作る。親子で楽しめる。

Q:助成金を受ける3年間で終了しても、その後もやる計画はあるか?

A:メンバーを広げ、継続を可能にしていきたい。そのためにも申請した。

Q:雨の時はどうするのか?

A:小雨なら可能だが、大雨なら中止。室内のスペースが多少あれば、雨でもできる。

5 〔神保町映画祭実行委員会〕 一般部門・1回目



神保町応援雑誌「おさんぼ神保町」のボランティア団体。昨年、「第0回神保町映画祭」を開催。ミニシアターの街・神保町から映画の街を発信する。まず、ロケ地として神田、神保町など古い街並みを紹介する。

自主映画のクリエイターも支援したい。北海道の中高校生が自主映画を作り、国際映画祭で上映される。低予算でも質の高い作品がある自主映画製作に住民にも参加してもらい、地域映画などを作り、「映画づくり」と「まちづくり」の融合を図る。

千代田区には昔ながらの居酒屋など、貴重なロケーションが多い。映画祭をやることで、「場」の意識も高まる。「街の映画アーカイブ」作りにも長期的にとりくみたい。

Q:ロケ地案内だけでは弱い。映画祭とまちづくりの関係性はどうい

うところにあるのか?

A:昨年開催した「第0回」も錦町で、岩波ホールも神保町。神保町はミニシアターの街だからこそ、この地で活動したい。

Q:映画祭は既にHPで宣言しているようだ。サポートの助成金は、何に使うのか?

A:サポート助成が無くても進めるが、あればさらに機材などを充実できる。

Q:映画祭で千代田のロケ地をアピールし、その映画がまちのPRになるということか?

A:それもある。地域住民にエキストラなどに参加して頂き、映画や映画祭を完成していく中で、さらに連携も生まれる。

Q:映画祭の開催が街に貢献するのか?

A:ロケ地ツアーなども企画し、映画祭でも神保町について広く紹介できる。

6 〔神田一八エリア振興会〕 一般部門・1回目



神田一八エリアは警察通り、靖国通り、中央通りに囲まれた地域。かつて東洋一の大手市場と謳われ、祖父の時代は青物市場があり栄えていた。この神田一八エリアを盛り上げていきたいという想いから、歴史ある街の認知度を高めようと、「食」を中心とした交流イベントを開催する。

神田一八通りの老舗飲食店と食材産地も笑顔にする交流で、街の活力再生につなげたい。さらに勤務者や住民を巻き込み総合的なエリアマネジメントも目指す。子供から高齢者まで多くの人々が交流できる場を提供し、コミュニティの再生につながる活動を心がける。

Q:具体的に何をし、勉強会では何を学ぶのか? それがどう活性化につながるのか?

A:街の歴史や文化などを仲間と共に学びたい。かつての縁日の賑

わいも取り戻す。

Q:その歴史を勉強した結果をまちづくりには、どう反映させるか?

A:町会や昔からの住民とマンションの住民の交流で学んだことを伝えつないでいく。地域のお稲荷さんや店、公園などの手作りマップ、音楽やスポーツイベントなども企画。次世代の子供達に継承する。ガイドブックにも載るようなすばらしいエリアにしたい。

Q:サポート助成の3年間終了の後は、活動の続きをどうするのか?

A:将来的には一般社団法人を目指す。この半年間である程度の資金は確保した。さらに活動を広げていくために申請した。



岩本町でOnEdrop cafe. (通常は飲食店)を営み、定休日の日曜にミュージシャンやものづくりの作家などが集まり、一日だけのセレクト・ショップを開催。新たに作品を作り販売してもらう。約10組の出展者の作品を店舗の中と店頭と並べる。

このエリアの地域活動から生まれたので、子供連れも多い。世代を超えた地域のつながりがさらに成長し、定着することを願う。様々なライブやイベントも開いている。今後、1つの店舗だけでなく、地域に広がっていき。いくつかの店舗に声をかけ同時開催をめざす。町会の方々と連携し、路上も会場にして人々の交流を図っていくつもりだ。

Q:申請書「支出内訳」の「当日の現場人件費」とは具体的に何か?
A:定休日にやるので、お手伝いのスタッフに支払うもの。自分たち

のためではない。
Q:今回の助成金は何に使うのか?
A:広報活動が必要なので、主にマンションなど新住民へのお誘いのチラシを作成して、旧住民の方とつないでいきたい。
Q:路上を使ったり、同時多発的にネットワークでつながりながら、エリアとして金物通り商店街や一八通りのグループなどとコラボして、活動ネットワークの輪を広げていってほしいが、どうか?
A:まさに、やりたいことを整理して、今、ご指摘頂いたと思う。
Q:町会の人達との交流のプロセスが重要ではないか。こだわっていることはあるか?
A:町会のイベントにも参加する。同時多発的に並行してやって、その全体を地域の魅力として発信できればと思う。



明治大学中心の「kanda 夢 Lab」を継承。東日本大震災で中止された「夢祭り」の復活を目指す、主に同大学建築学科の学生。

お茶ノ水駅前通り商店街では、アートピクニックの空間構成をモノ作りで行った。芝生の椅子やフレームなども好評。建築学会主催「子どものまちいえワークショップ提案コンペ」で優秀賞。ワテラス建設中「淡路丸かじりウィーク」では子どもの遊び場づくり。

今回、「人と人をつなげるモノづくり」をテーマに、既にあるものをデザインし直し、日常的に使えるモノづくりを地域に提案したい。例えば、駅前の丸善前広場にあるワゴンを新しくデザインして交流の場にする。

7月にDIYワークショップを開き実際に作るモノに触れて頂く。10月に

は、お茶ノ水アートピクニックで日常のもの改造計画始動、触れ合いを実感してもらう。11月以降も地域の人や他の学生団体、NPOの人たちとも、この活動を重点的に行っていく。
Q:他に地域の方とのつながりはあるか?
A:12年間の活動で地域とも深いつながりが生まれ、商店会や医療法人とも協働してきた。
Q:今回のメンバーは、新しい人たちか?
A:そうである。私は大学1年から6年間活動に関わり、その経験を地域に活かしていきたい。
Q:丸善はスポンサーにならないのか?
A:丸善の店長さんと話したが、ワゴン自体は改造できないそうで、新しい使い方で空間に活かす。資金提供は難しいが相談していく。
Q:アートピクニックからの資金援助は?
A:多少援助がある。DIYワークショップで作ったモノをSNSで発信する予定だ。



メンバーは5人。港区のコミュニティスペースの活用から活動を始めた。料理教室を通しての地域交流を図る。2014年から千代田区に移り、多忙な会社員や子育て中で料理を習いに行けない子供連れの女性を対象に開いた。ランチタイムの1時間で完結する料理教室で、徒歩10分圏内の方が対象。

シェフによる20分の料理レッスン。残りの40分でテーブルを囲んだランチと、職場や自宅に戻る時間も入れて終了。住民の方にも好評で既に約2000人が参加した。会話しながら楽しく食事ができて、気軽に効率的に料理と人に触れ合う機会を提供する。

千代田区は在住、在勤の人が集まりやすい便利な場所。今後の展開は開催後の参加者の声をヒヤリングし市民に伝える。リーズナブルな料金も維持したいのでぜひご支援を。

Q:参加者の方と、その後の活動は?
A:モニターとして毎回アンケートを取り、子供向けの料理教室を開き、住民のおばあさんの味を伝える企画を考えている。
Q:普通の料理教室との違いは何か? 地域とどう交流するのか?
A:年間を通しての申込制でなく、気軽に手ぶらで地域の人が昼休みに参加できること。
Q:講師が料理人なら本業のPR活動にもとれる。まちづくりとしては何をやるのか?また、千代田でなければならぬ活動か?
A:地元の方を講師にして住民を巻き込みたい。レシピを共有することやシェフとの対話も魅力でコミュニケーションの場となる。



神田の町が大好きな仲間が集まって企画。目標は千代田区の子供達に、遊びを用いた国際交流の機会を設けること。ビジネスや観光で多くの外国人が訪れ、滞在もしている。だが、子供達が外国の子供達と出会う機会は少ない。言葉のいろいろな「遊び」というアプローチから、国籍を超えた国際交流の場を作る。

「チルリンピック」とはチルドレンとオリンピックを合成したもの。このイベントを通じて子供の感性や好奇心を刺激し、その視野と可能性を広げ、大人にはできない交流を育てる。伝統と革新を併せ持つ千代田、多様な人々が訪れ、暮らす地域だからこそできる。

言葉や宗教、人種の違いを乗り越えて、遊び合い、分かり合うことができるのが子供だと信じる。彼らが築く未来を楽しみに活動する。

Q:実際に外国の子供達に、どう声をかけ、どのようにアプローチするのか?
A:まずは、外交官、大使館員、領事館員、料理店の子どもたちにアピールする。
Q:千代田の子どもたちをどれくらい知っているのか? 集めるのは大変ではないか?
A:すでにNPOコードモ・ワカモノまちingなどと知り合い、協力を打診している。活動を始めたのは、本格的には4月からだが、2012年頃から企画、試行錯誤の末のこと。
Q:コラボとは具体的には何か? なぜ外国人の子供とのチルリンピックなのか?
A:実際に千代田には多くの外国人が暮らしている。将来増えていくと思われるので、国籍を問わず目標100人の子どもたちで年一回のイベントに育てたい。



としまち研のある東松下町は昭和通りと山の手線に囲まれた地域。前身は『みらい』都心居住促進研究会で、第1回・2回まちづくりサポートの助成を受けて活動した。

東松下町では、千桜小学校跡地の再開発事業に伴い、完成すると町会の人口が4倍に増える。これら新住民を迎え入れるために、コミュニティ委員会を設立、次世代を担う若手を中心に準備を進めている。誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティカフェの実現により、直接的な地域の情報交換や交流の場を確保。その活用と運営に新旧住民自らが共に、主体的に関わることを目指していく。

Q:住民が一気に4倍とはすごいが、新住民だけで町会を作る動きはないのか?
A:新設マンションの地権者や分譲会社の方が協力的で、共に同じ

町会でまとまる方向に。区営住宅もその方向で動いている。
Q:一八通りのグループなどとコラボは? 他にも新旧住民の交流というテーマが多い。例えば、ウェルカム・パーティのノウハウなど、互いに学び合えるのではないか?
A:同じまちづくりとして支えたり、支えられたり、互いに学び合いながら交流したい。町会も応援してくれている。
Q:リーフレットを500部作るとあるが、どういう人に配り、どう広めるのか?
A:旧住民に300部、新住民に200部。HPなどでも広めるが、情報の共有には、紙の媒体も必要だと考えている。



建築・デザイン学科で空地を利用イベントを提案。地元の方や神田学会久保様の評価を受け、神保町の新たな可能性と魅力を創り出す活動をして提案の実現を目指す。

具体的には、イメージキャラクターゆるキャラ「じんぼうチョウ」の着ぐるみを製作。古本まつりに空地でイベントを開き、「じんぼうチョウ」が案内する計画。

今年は絵本グランプリ等のコンペで、投票によりグランプリを決定。そのイベント案内広報の作成と活動記録の作成、ホームページでの発信も行う。それらを報告書としてまとめ、印刷製本をする。学生生活の最後に大好きな神保町の役に立ちたい。

Q:メンバー全員が4年生で、サポート活動の3年後は、誰が引き継ぐのか?キャラクターは使用後どうするのか?

A:必ず後輩に引き継ぎ使ってもらおう。町の方にもどんどん使ってもらいたい。
Q:助成予算が減った場合でもやるのか?
A:何とか工夫して、ぜひやりたいと思う。
Q:ゆるキャラグランプリには他にも団体が関わり、同じ大学のようだがコラボは?
A:知らなかったが、家政学科(衣服)のようで、連絡をとってぜひ一緒にやりたい。
Q:市民とどんなコラボをしてきたのか?
A:1年生の時から神保町のことを街の人にヒヤリングした。3年生の演習で「街を元気にする空地プロジェクト」を提案、講評に地元の方に参加してもらった。今後も古本まつりなどに、ゆるキャラも使ってもらいたい。

13 〔千代田まちづくりサポーターズ・ネオ〕 テーマ部門・1回目



千代田まちづくりサポートの体制強化を目標に、中・長期的なプランを企画した。メンバーはかつて助成を受けて活動し、現在はNPOを立ち上げ、まちづくりや公共空間のマネジメントをしている。

まだこの事業が周知不足であることを実感し、周知の仕方を工夫する余地があると痛感。情報の共有や交流の場が少なく、ネットワークとして進化する。日常的な仕組みが必要だ。また、助成を修了した団体のサポートが不十分で、助成3年以降の活動が基盤化できず解散した例が多い。類似した活動や、その質が更新されず活動が深化しない。

1年目は制度の周知強化と卒業団体のネットワークを確立する。サポート運営母体への参画や、学生団体の相談窓口となり、ノウハウを共有し、提供していきたい。

Q:助成卒業団体への支援やネットワーク化の活動とは、具体的にどのような内容か?

A:実際に卒業団体のメンバーに会い、自立して活動している団体には継続して行くノウハウを聞き、それを共有していく。

Q:ネットワーク化は必要だが生業もあるので簡単ではない。実現するポイントは何か?

A:まず話を聞ける人を見つけ、紹介するシステムをつくり、相談者をつなぐ組織をつくる。

Q:グループではなく個人として訪ねても、実際に相談を受けてくれるのか?

A:もちろん対応する。これまでの経験も活かし、つながりの中で、何かしらお役に立てると思う。

14 〔Small Gathering Chiyoda (スモールギャザリング・チヨダ)〕 テーマ部門・1回目



マンション・コミュニティの活動団体。今回のサブタイトルは「サタディ・ランチタイム」。活動の始まりは、今年1月に内神田にシェア型複合施設『the C(ザ・シー)』のオープンがきっかけ。地域単身層コミュニティの育成を目標に、住民、オフィスワーカー等の入居者、スタッフ有志が初期メンバーになる。

第一歩として、月に1度の朝食会を企画。気軽に遊び心満載のランチを実施する。テーマは防災や子育てなどを語り、交流する。

千代田区は住民が増えているが、単身層が多い。彼らも地域に無関心ではなく、人の役に立ちたいと思っている。若者との接点に、「食」に注目、当たり前の朝食を共に楽しむ。街のキーマンをゲストに招き、徐々に輪を広げ、街への感心もお互いに高めていく。

Q:どういった方法で伝え、広げるのか?

A:シェアハウスの台所で料理し、土曜日のランチ(朝食・昼食)を気軽に。近所で、10時から13時という時間設定。マンション管理会社にチラシを配り協力してもらう。

Q:千代田区のまちサポとの関連は何か?

A:マンションやシェアハウスから、内部だけではなく外部へ、街へと交流を求め人たちが多く。区全体へ広がる活動になる。

Q:なぜランチなのか? その理由は?

A:まず、対話をする場が必要。顔なじみになって、食のつながりが生まれる。

Q:その顔なじみが定員20名とあるが、だいたい同じ顔ぶれになるのでは?

A:20名はおよその目安、どんどんいろんな方に声をかけ、増やしていきたい。

15 〔グリーンネイバーフッド千代田を目指す会〕 はじめて部門



千代田区在勤の環境問題に関心のある者の集まり。目的は環境というテーマでの街づくりを在勤、在勤の者、皆でやる活動。

住民同士が触れ合う機会も少なく、一方、独身者は結婚願望があっても出会いがない。マンション管理

組合なども交流の場を求めている。区内には環境に配慮した施設(エコスポット)があるので、まず、そこを巡る街歩き散策イベントを開催。

その参加者を対象に「チラシ作成講座」を行い、イベント内で企画したエコツアーのチラシを作成。ベストツアーに選ばれたものは後日実施する。

街の魅力に気づいてもらい、異性に出会う切っ掛けを提供し、環境についても考えてもらう。環境への配慮を街の文化として根付かせ、

そこで生まれたカップルが両親となり、子育てをする。次世代へと活動を引き継いでもらい、千代田の人口も増える。

Q:参加者の数を増やせるかがポイント。チラシだけでツアーの集客ができるのか?

A:エコ団体に集客を呼び掛けてもらう。フェイスブックにもオープンにし、婚活希望者を募りたい。チラシのデザインはお茶ノ水美術専門学校の方に講師を依頼する。

Q:ツアー終了後、参加者はどうするのか?

A:ツアー企画のコンペで最優秀チームを、来年度の主催者にし、参加者をつないでいく。

Q:参加者のネットワークづくりは?

A:それが継続には重要だ。環境問題、緑の関係性(グリーンネイバーフッド)でつなげる。

16 〔トンボソリューションズ〕 はじめて部門



認知症の徘徊による行方不明者の問題は、ニュース等でも報道され深刻である。千代田区でも例外ではないとのこと。特に在宅介護のご家族や独居患者さんの場合、近所の方の協力があっても捜索は困難だ。そのお手伝いをする地域ネットワークをつくりたい。

まず、協力者のスマートフォンに専用アプリを入れることで、患者さんが所持する無線発信機(500円玉より小さく、電池は1年以上もつ)の信号により、行方不明者の顔や名前を知らなくても発見することができ、すぐご家族に連絡がとれる仕組み。

ご家族の方は患者さんが行方不明になれば、電話やメールですぐ捜査以来の連絡をする。確実に早期発見につながる。この見守りネットワークには、助成グループの「千代田区こども110番連絡会」様に依

頼し、連携して地域活動として協働したいと考えている。

Q:「こども110番」の協力者は家やお店である。PTAなどに頼むが、結構忙しいので難しい。シルバーの方などはどうか?

A:シルバーでも区内の見守り活動の中に、これを加えて頂ければと思っている。

Q:申請書にある資料費は何に使うのか? システムは完成しているのか? 特別養護老人ホームには話をしたのか?

A:システムは更に改良したい。その開発の参考図書代。特養ホームには話しているが、とにかく、見守り協力者をどうするかが問題になる。そこを解決し、将来はNPOを立ちあげて活動したい。

17 〔リーブ・ウィズ・ドリーム〕 はじめて部門



千代田まちづくりサポートの助成で、バリアフリーマップを発信する活動をしてきた。今回はバリアフリーに気づかない人や地域へ、バリアの認識、意識の向上を働きかけ、店舗、レストラン、カフェからの発信方法の提案。このアクセシブルクーポンへの協力依頼により、店主、店員、来店者のお互いの接触機会が増え、バリアフリーのボトムアップができる。

集客と社会貢献を兼ねたサービスを店舗側は提供。それにより障害者は気兼ねなく店舗に出かけられる。店舗側のウェルカム発信は介助者も含めて利用しやすくなる。障害者手帳を示せば安くなるとか、車椅子のままオーケーとか、小さな店でもできることがある。

初年度は意識調査、メンバーの知人への協力依頼。カレーグランプリなどの区内の活動団体にも声をかける。その団体発行のクーポ

ンと併用することで、各団体のバリアフリーへの意識も向上するはず。

Q:どれくらいお店の音が届いているのか?

A:まだ、検証中の段階だが、きちんと調査をして、需要があった時に対応する。

Q:ぜひ、検証の結果を店舗に届けて、流れをつくってほしい。

Q:クーポンはどういう形にして流すのか?

A:その点もリサーチして、冊子を出す、チラシに載せるなどの方法を検討する。

Q:これまで、千代田区にはこのようなクーポンはなかったのか?

A:日本中で調べても、障害者対象のクーポンはない。千代田区発で全国に広めて行ければと、大きな夢を持っている。

18 〔文人通りランチ会〕 はじめて部門



最近は隣近所の交流は乏しく、顔も知らない、挨拶もしない人が多い。住民の高齢化とマンションの若い住民との間は、世代間のギャップだけでなく、触れ合う場と機会がないということが大きな問題。

この地域は商店街も、お祭りなどもない。そこで、住宅街の中の唯一のカフェを借りて、ここを基点に地域の人々の交流を図りたい。具体的には、年に数回、日曜の朝に、一緒に美味しいランチを食べる。地域の食材を取り入れたり、地域活動を紹介したりして、互いに理解を深めていく。

かつて、明治の文豪たちがこの地に集い、芸術や日本の将来について語り合ったという。様々な人生経験を積んだ年長者や、新しい活力を持つ若い人たちが出会い、語り合うことで、何かが生まれるはずだ。困った時には助け、支え合う関係が築ければと思う。

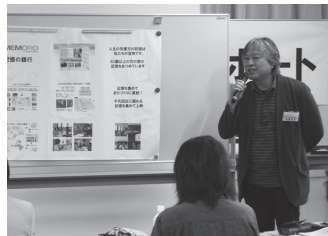
Q:メンバーが3人では、結構大変では? メンバーを増やし、広げる声かけを。テーマ部門の他の団体ともコラボしては?

A:ぜひ、そうしたいと思う。

Q:文人通りというネーミングもいい。10月のランチ会フェスタとはどういうものか?

A:子どもたちの作品を展示、食とアートを表現。シニアの音楽会や絵画など、ブースも出したい。自由な発想でやるお祭り。

Q:初めての活動なので、ポイントを絞ってはどうか? 徐々にやりながら信頼を得て行く方法もある。共に疲れずに。



イタリアで始まった活動。MEMORO(メモロ)とはエスペラント語で「メモリー」の意味。現在17カ国が参加、日本では平成23年にNPO法人となり活動している。人々の記憶を撮影して後世に残す。具体的には数分のインタビュー動画

や音声の形でウェブ上で世界に展開する。千代田区の60歳以上の方の人生ドラマを映像にする。約10名程度の記憶のアーカイブを収集、体験豊かな先人の知恵と勇気をまちづくりに活かして貢献する。上映会とワークショップも開催し、世代間の交流にも役立つ。インタビュー人材の育成、語り手のシニアの生き甲斐づくりと、撮影者(メモリーシーカー)の発掘。記憶を語ることは

介護予防にもつながることも検証し、大切な「ちよだの記憶」を記録していきたい。

Q:千代田を対象にして、活動はどのようにまちへ還元されるのか?
A:語り手の方を集め、若い人にもインタビューをしてもらい、ゼネレーションギャップを埋める。千代田の歴史も活かせる活動だ。
Q:子供達にお年寄りの話を聴かせるのは大事。戦争体験等もぜひ記録してほしい。
A:この時代に、記録を取り、残していくことは必要で大切。上映会でも盛り上がり交流になる。
Q:千代田区内の団体で、すでに同じような活動があるので、ぜひコラボしてほしい。
A:幅やテーマを広げて、やりたい。イタリアのサーバーとリンクすることもできる。

審査員講評



窪田委員

■ EATALK

食べる事と話す事。ふたつの非常に個人的な日常生活の1シーンを、地域の方々と共に共有して、つながりをつくらうという試みが、EATALKだ。そうした場づくりに、自らの料理能力で貢献したい、集まる方々に料理をする力をつけてもらいたいという申請メンバーの気持ちは非常にありがたいと思う。そのようなプロフェッショナルな方が、新たな展開を求めて、まちサポにチャレンジいただけるのは、まちサポの特徴である。

そういう想いを、地域の方々とうやうやたら共有できるのか、議論を深める時期にいただければと思う。そのあかつきには、地域の方々(住民や勤め人ら)の混成チームで、このような活動提案をいただければ大変ありがたいと思う。

■ NPO都市住宅とまちづくり研究会

「としまち研」といえば、都市部での住まい方に関心のある者にとつては大変著名な活動を展開している団体だ。郊外でしばしば実現しているコーポラティブ住宅(計画段階から居住予定者が集って議論をして住まいのあり方を決めていく方式)を都市部で成功させている。

そうしたチームの皆さんが新旧住民の方々をつなぐ場所づくりを提案してくださった。

プレゼンテーションの中で、連続と続いてきた地域社会とご自分たちのグループが並んで祭りのときに撮った記念写真を見せてくださった。それは、新参者でありながら地域社会に参画し、より魅力的なまちとして磨いていく中心的な役割を担っていることの矜持の表れでもあろう。

一連の活動によって得られた知見は、他の界隈の方が聞いたら、積極的に取り入れたいものであることを期待したい。

■ NPO法人MEMORO「記憶の銀行」

記憶についての議論は、しばらく世界中で盛り上がっている。客観的史実とは異なる個人の記憶だからこそ、その集積には、特定の時代の地域社会そのものが浮かびあがってくるのではないか。縮退の時代に入って、生産一辺倒だけでもない状況の今だからこそ、記憶の価値がクローズアップされているのだろう。

ご提案は、こうした世界中の潮流をふまえたうえで、映像等のプロフェッショナルが応募くださった。まちサポならではの可能性を感じさせる。

記憶を集める作業は、千代田区の中で様々な試みがすでにあるようだ。そうした状況を把握して、せっかくの各々の取り組みが豊かに関連するような仕掛けを考えていただけると、非常にありがたいと思う。



新田委員

■ 神保町映画祭実行委員会

公開審査会の醍醐味ともいえるかもしれません。申請書の内容と公開審査会におけるプレゼンテーションにギャップのあった団体の一つでした。「市民による映画作りが、まちづくりにとてよい」という点や「千代田の魅力ある建物をしっかりと記録と記憶に残しておきたい」という熱意がプレゼンテーションによって伝わってきました。

実施しておられる皆さんは、すでにプロジェクトを運営するノウハウはお持ちなので、このまちサポが応援すべきことは、応募団体同士の横のつながりや地域の方たちとの顔の見える関係作りのための

後押しだと審査会では判断をすることとなり、今回の結果となりました。ぜひ、着実にチャレンジをし続けていただくことを願っています。

■ グリーンネイバーフッド千代田を目指す会

千代田区に在勤をされており、環境問題に関心のある30代が中心になっている集まりであるというのが面白い。また、環境街歩きをするときの対象者が「独身者」であるというのがまた面白い。しかも実施する「目指す会」のメンバーはほぼ既婚者という。

30代、40代も社会とのつながりや社会課題への関心は強いが、なかなか仕事や家庭が忙しく地域に目を向けることが難しいと言われるとおりそのような統計も出ているが、「エコ婚活」という切り口を新新にすれば、まちづくりにもつながっていくのだという心意気を、大い

に発揮してほしいと思います。1年間しっかりとがんばってください。

■ トンボソリューションズ

申請をされる団体の皆様にもやり遂げたい目標があるように、助成金を出す側にも目標や目的があります。お互いの目標がかみ合ったときに、共感が生まれると考えています。

徘徊による行方不明者という問題は大きな社会問題であり、社会



谷委員

■ 東京高架下軌道(通称にここご電車)

3年前、麹町納涼子どもまつりで、軌道幅5インチの汽車が走りました。日大の鉄道サークルが参加した物でした。しかし、たった1年だけの参加で終わり、学生サークルだけでは、無理があったようです。

今回このエントリーを見た時、即座にこの事を思い出し、子どもの喜ぶ顔が浮かびました。SLが走っているのは良く見ますが、ローカル線のミニトレインは少ないですね。子どもには身近で興味を持ってもらえると思います。

神田地区(意味あると思いますが・・・)にスポットを当てていらっしゃるようですが、千代田区全区で考えて下さるとうれしいです。

麹町・番町地区にも電車を走らせる場所があります。一考を!ご相談ください。

もう一つ、電車の仕組みなどのワークショップを考えていらっしゃるの事、イベントの時に合わせてやって頂けると、ますます子ども



後藤委員

■ 神田一八エリア振興会

「青物市場発祥の地」という歴史ある地域の復活を「食」をテーマにして集客・交流イベントを開催するという。この地域の周囲には秋葉原の電気街、本の町神保町、小川町のスポーツ店など国内外に知名度のある町が広がっている。しかしその隣町でエアポケットのように何の変哲もない「一八通り」の知名度の低下に危機感を覚えて今回サポートに応募されたのだろう。代表の堀川さんの熱意は十分に審査委員に伝わったと思う。その評価が応募者中で最高点をとった結果にあらわれた。

ただ一つ注文をつけさせてもらえば、「青物市場発祥の地」というKey-Wordだけにとらわれ過ぎると飽きられてしまう。もっと多角的な面からこの町を見つめ直すことも必要だと思う。中間発表、最終発表が楽しみなグループだ。



江口委員

■ On Any Sunday

地域に関係する人たちの協力によって季節ごとにイベント(セレクトショップ)を開催し、地域のコミュニティを築くという提案でした。活動実績は10回を数えており、徐々にではありますが地域の方に認知されてきているのではないかと思います。活動の様子を写真で拝見しましたが、大人から子供に至るまで非常に楽しそうに参加していたのが印象に残っています。また、発表を聞いて、代表者の地域を活性化させたいという意欲も伝わってきました。

全体で解決に導くテーマであることは間違いないと思います。今回申請をいただいたのが、見守り活動という活動そのものへの助成というよりは、アプリケーションソフトの開発が優先されるように感じられたのが残念でした。これからも活動を継続され、このまちサポがお役に立つことがあればぜひ再度応募いただきたいと思っています。

達の好奇心が芽生えるのではないのでしょうか?

■ 文人通りランチ会

審査員の中で、このエントリーはまちづくりサポート事業の趣旨にマッチしていると、好印象でした。

一昔前のように道でおしゃべり、子どもは道路で遊び、誰もが子どもを叱り、地域で子どもを育てていたように思います。

現在、文人通りの土・日は人も車も通らない場所です。あ〜あ、もつたない!

絶好の交流の通りだと私も思います。エントリーの皆さんの着眼点すばらしいです。そしてその真ん中にカフェがあり、一休み。おしゃべり〜。現代にマッチした新しい感覚の通りになりそうですね、ぜひ、文人通りを人が行き交う活気溢れた通りにして欲しいと思います。今年は初めて部門ですので、あせらず、ゆっくり本トライに向けて、歩いていってください。

インクルーシブを目標に、一昔前の様な老若男女だれでも集う『日曜日@文人通り活性化』を楽しみにしています。

■ チルリンピック実行委員会

たった一人で公開審査会の場に立った増田さんの気合いの入った姿に審査委員のみなさんは圧倒されたのではないだろうか。股引、腹掛けに半纏を羽織って、鉢巻を巻いた姿は先日終わったばかりの神田祭から抜け出してきたようだった。熱い思いを語る彼の主張は「国境を越えた世界中の子どもたちに、出会いの場を遊びを通じて実現する『チルリンピック』の開催」だった。

チルドレンとオリンピックを掛け合わせた造語「チルリンピック」はアイデアとしては面白そうだが、実現はそう簡単なものではない。審査員はその点を質問した。外国人の子どもたちをどうやって集めるのか、開催場所の候補地は?など問題点は多かった。

一次審査の結果は芳しいものではなかったが、彼の熱意ある答弁で復活した。今年はあせらずにじっくり仲間内で議論を重ねてほしいと思う。実現までに三年かけるくらいの気持ちで、三年目にはすばらしい「チルリンピック」の開催を楽しみにしています。

今後は、地域の町会や他団体等と連携を図りたいとのことでしたが、この助成を期に、まちみらい千代田を活用し、他団体とのネットワークを構築してほしいと思います。質疑であったように他団体との連携による地域内での同時多発的なイベント開催など、活動が拡大していくことを期待しています。

■ リーブ・ウィズ・ドリーム

以前、「ちよだバリアフリーマップ」作製によってサポート大賞に輝く素晴らしい活動をされていることもあり、今回の活動も非常に期待しております。これまでの活動に満足することなく、まちづくりのため

に新たな活動にチャレンジすることは、他のグループの方にも、いい意味で刺激になったのではないかと思います。

はじめて部門での申請であり、これから具体的な内容の検討や協力店などを探すとということでありましたが、これまでの活動実績や

ネットワークを活かし取組んでほしいと思います。日本は、ハード面のバリアフリーは整備されつつありますが、ソフト面ではまだまだ不十分な状況にあります。この「アクセシブルクーポン」によって、バリアへの認識・意識向上が図られるように取組んで欲しいと思います。



三原委員

■ 神田暮らし探検隊

食老舗は、「創業〇〇年」といった店や企業、名工の手仕事による職人の店、ロングライフ商品や昔からの味を受け継ぐ名店、様々な形態があり、地域との関わりも一様ではありません。また、古本屋街や電気街といった小売業を中心とした限界ばかりでなく、大工町のような職人町、葉間屋街のような同業種の集積する限界、須田町で“1着のオーダースーツができる”という様な地域内分業体制の限界などがあり、多様な個性を有していました。

こうした限界の特性は、地価負担力が業種業態の立地を左右するという都心特有の不動産的圧力に常にさらされつつ、一方では国内外の産業衰亡と連動しており、現状ではほとんど瓦解しつつあり、その痕跡も消失しようとしています。

神田ならではのライフスタイルや継承すべき地域遺伝子を描き出す試みは、極めて困難ですが、これに怯まず果敢に取り組む若い知性に大いに期待しています。

■ みんなでつくるまちづくり推進協議会

専門家グループが「まちづくりサポート」に参加下さるのは都心らしさを感じます。ネットワークも含め専門家ならではの視点や知見をベースに、グループ名称でもある「みんなで作る」プロセスを大切にされていることが評価され、助成につながったと思います。

専門家グループゆえに期待も大きくなります。「インクルーシブデ

ザインの基準づくり)をプロセスだけではなく、「みんなで共有でき、みんなで作れる、みんなが共感できる」成果としていただきたい。ここでいう「みんな」とは、この「まちづくりサポート」に参加して下さっている、あるいは過去に参加いただいた活動グループの方々やそのネットワークをまずは意識して下さい。

「誰に対してどのような基準づくりを行うか」について、活動の早い段階で見通しを立てていただきたいと思います。

■ 千代田まちづくりサポーターズ・ネオ

今回創設された「テーマ部門」の第1号の助成グループとなります。この「まちづくりサポート」というシステムをどのように成熟化、豊饒化させていくか、皆さんの活動力に掛かっています。

活動を進めるに際しては、財団の事務局の方々や出捐企業、賛助企業、千代田区役所の皆さんなど、裏でこのシステムを支えて下さっている方々を十分意識し、視野に入れて下さい。また「サポーターズクラブ」のメンバーと連携しながら活動を展開されることを希望します。今回助成が決まった活動グループの中には、ネオの皆さんとのつながりやアシスト、バックアップを求めているグループがあるようにも思います。

皆さんの「若々しい熱いやる気」が、この助成を通してどのように結実するか、大きな期待が寄せられています。その風を満帆で受けて活動を進めて下さい。

今回は助成対象団体を絞り込む審査の段階で苦戦されましたが、最終的には「はじめて部門」のような扱いとすることで、見事に難関を突破されました。

実力のある団体ですので、初心に帰り、さらなる実績を積み重ねていただきたいと思います。

■ 共立女子大学 神保町NeO

こちら、元気な街「神保町」を一層明るく楽しもうという企画で、とても好感が持てました。ゆるキャラ「じんぼうチョウ」はコンセプトもデザインも秀逸で、素晴らしい出来映えです。即使用可能なレベルであり、着ぐるみが神田古本まつりで活躍する姿をぜひ拝見したいと思います。

今回は、「神保町コミュニティプラザ」に合流することになりましたが、プレゼンテーションをお聞きし、学生さんならではの新鮮な発想、コマーシャルベースに囚われない斬新性に強い期待を持ってましたので、個人的には少し残念でした。合流により、お互いの強みを生かした相乗効果が表れることを期待します。



立川委員

■ 神保町コミュニティプラザ

神保町は千代田区内で最も元気な街のひとつです。その神保町を一層明るく楽しもうという企画で、とても好感が持てました。東京オリンピック・パラリンピックの開催を控える中、コンシェルジュの育成やガイドツアーの開催、観光案内地図展示会などは、誠に時宜を得た取り組みであると高く評価できます。

なお、既存の「本と街の案内所」との棲み分けについてお尋ねしたところ、「本と街の案内所は古書検索に特化しているの・・・」といった趣旨の説明をいただきました。しかし、案内所は、千代田図書館からコンシェルジュが派遣されており、区内のイベントや文化施設、飲食店等の案内も行っております。ぜひ、共存共栄を図られ、来街者にとって役立つ企画として成功されますことを祈念致します。

■ ユメラボ

今年で創設12年目を迎える学生団体で、しっかりとした実績に裏付けられた安心感がありました。「お茶の水アートピクニック」での活躍もそのひとつです。



鈴木委員

■ Small Gathering Chiyoda (スモールギャザリング・チヨダ)

千代田区の人口構成で単身世帯が占める割合は比較的高いですが、居住者のコミュニティ支援の中で、高齢者世帯やファミリー世帯と比較して、とかく見過ごされやすく、支援策が少ない若年単身居住者に視点を当てたコミュニティ支援・醸成を育む一つの方策として評価したい。その切り口として、食をキーワードにして、現在の若者の意識(社会

【総評】 審査会会長 窪田亜矢

皆さま、長い間、お疲れさまでした。この千代田まちづくりサポート事業の公開審査会は、平成10年より、毎年1回、過去14回開かれました。大変ユニークで有意義な市民活動の支援事業として、高い評価を得たものでしたが、その後2年間の休止期間を余儀なくされました。

再開を要望する声も多く、各方面のご協力とお力添えを得て、今年、ついに再開の運びとなりました。本日、第15回を迎えまして、再開の前後から関わった者として、19組の団体の方々から熱い思いで発表されるのを聴き、本当に感無量の境地です。

ふり返りますと、その最初の審査会の時から関わった東京大学の北沢猛先生がおります。私の恩師でありましたが、既に他界されました。先生はいつも、「市民がまちづくりに関わるとはどういう意味があるのか?」「なぜ、千代田でやるのか?」と問い続けておられ、専門家として考えておいででした。

だからこそ私も教えを受けた者の一人として、この活動を途中で終わらせてはいけないと考えておりました。しかし、そうは言うものの、それは簡単なことではなく、ここにおられる審査会委員の方々とも、様々な議論を重ねて参りました。

また、これまでまちサポに関わって来られた方や、サポーターズクラブの皆様他、たくさんの方々から新参者の私達に快く、多くのヒントを与えてくれたのでした。心から感謝しております。

改めて思いますに、いかなる活動もいつも楽しいばかりでは決し

の一員でありたい、人の役に立ちたい、高級レストランでの食事よりも気の合う仲間 BBQ等)を捉え、ライトなカタチでコミュニティの芽を育む提案がとても新鮮に感じ、また、経費の面からも納得がいく提案だったと思います。

審査においては、多数の委員の賛同が得られず助成対象にはなりませんでしたが、若年単身者のコミュニティ支援は、まちみらい千代田の課題の一つであり、提案者との意見交換等を行いたいと考えています。

でなく、当然ながら辛い時もあるものです。けれども活動がつながっていくと、「やはり、やらなくては」という強い気持ちになるのではないのでしょうか。

私は、今、福島県南相馬市のまちづくりを微力ながらお手伝いしています。ご存じのように原発事故以後、未だに誰も住めず、市民は昼間しかいられない商店街で、店を開きたいという人々がいらっしやるのです。

「どうしてですか?」と尋ねると、「たとえ仮設だろうと、開くのを待っている人がいる」ということでした。

今日の発表者の方々は、やりたいことをそれぞれ情熱的に語ってくださりすばらしく、私達は大変興味深く伺いました。

ですが、今後はその気持ちが少しばかり冷静になり、「求める人がいるならやろう」という気持ちになると、ちょうどよいのではないか、と僥倖ながら思いました。

今後、中間発表会、活動成果発表会もあります。その時、今の熱い思いと共に、地域の方の気持ちを汲み上げて、それらを混ぜ合わせた形で、さらによい活動に昇華されていることを示して頂ければと期待しております。

簡単ですが総評の言葉といたします。

本当に今日は、一日、ご苦労さまでした。そして皆様、ありがとうございました。

第15回千代田区まちづくりサポート 審査評

部門	回数	団体名	一次審査			二次審査	申請額(万円)	助成額(万円)
			★活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える。	■活動企画内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい。	▲意義ある活動だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考える。	●活動内容を支持する		
一般	1	神保町コミュニティプラザ	★	■		●●●●●●●●	50	40
一般	1	神田暮らし探検隊	★ ★ ★ ★	■		●●●●●●●●	26.3	25
一般	1	みんなで作るまちづくり推進協議会		■		●●●●●●●●	50	33
一般	1	東京高架下軌道		■		●●●●●●●●	34	29
一般	1	神保町映画祭実行委員会		■		●●●●●●●●	50	5
一般	1	神田一八エリア振興会	★ ★ ★ ★ ★	■		●●●●●●●●	50	44
一般	1	On Any Sunday	★ ★ ★	■		●●●●●●●●	24	22
一般	1	ユメラボ		■	▲	●●	40	5
一般	1	EATALK		■	▲▲▲▲▲▲	●	50	0
一般	1	チルリンピック実行委員会		■	▲▲	●●●●●●●●	15	11
一般	1	NPO都市住宅とまちづくり研究会	★ ★ ★ ★ ★ ★			●●●●●●●●	40	36
一般	1	共立女子大学 神保町NeO		■	▲	●●●●●●●●	23	0
テーマ	1	千代田まちづくりサポーターズ・ネオ				●●●●●●●●●●	50	35
テーマ	1	Small Gathering Chiyoda				●	48	0
はじめて	-	グリーンネイバーフッド千代田を目指す会				●●●●●●	5	5
はじめて	-	トンボソリューションズ				●●	5	0
はじめて	-	リーブ・ウィズ・ドリーム				●●●●●●●●	5	5
はじめて	-	文人通りランチ会				●●●●●●●●	5	5
はじめて	-	NPO法人MEMORO「記憶の銀行」				●●	5	0

※テーマ部門については審査会委員が一名加わり、8名での審査となります。
※「神保町コミュニティプラザ」と「共立女子大学 神保町Neo」は審査後合併し、「神保町コミュニティプラザ+共立女子大学 神保町Neo」となりました。

■山崎理事長あいさつ



千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、平成10年にはじまり、平成24年まで14回継続して開催してきました。この間、多くの方々にご支援ご協力をいただいていたのですが、事務局の体制が十分でなかったことなどにより、2年間休止していましたことをお詫び申し上げます。

私が就任してから、まちに出ると「まちサポ、なんで休止しているの? 早く再開してほしい」という声を多くききました。

個人的にも、まちサポ事業の立ち上げや審査会委員として関わったことから、まちサポへの想いもあり、できるだけ早く再開しなければならないとの思いを強くしました。

再開に当たっては、なるべく多くのグループに応募していただけるよう、広報活動に努めるとともに、新たな受け皿として、テーマ部門を設けました。

テーマ部門は、あらかじめ設定したテーマに沿った内容で応募して

いただくものです。

今回は、まちみらい千代田の業務にかかわるものとして二つのテーマを用意しました。一つは区民の85%がマンションに住むという千代田区の実態があり、まちみらい千代田がマンションに関する施策の総合的・一元的な窓口を担っていることから、「マンションコミュニティ」に関するテーマ設定をしました。

もう一つは「千代田まちづくりサポート事業について」ということで、まちサポの継続的な実施やさらなる発展を期待して、新たな取組みや運営方法などについて提案をいただきたいと思い設定しました。

いずれもすぐれた提案と判断されれば、1年間の結果を見て、委託事業やまちみらい千代田との協働事業として取組んでいきたいと考えています。

本日、審査をしていただきます委員の方々、朝早くからお手伝いしていただきありがとうございますサポーターズクラブのみなさん、そしてまちサポを様々なかたちで、まさにサポートしていただいている多くの方々に御礼申し上げます。

■賛助会員募集中です!!

公益財団法人まちみらい千代田 賛助会員一覧(敬称略)

平成27年8月現在

【法人会員】			【個人会員】		
業種	会員名	業種	会員名	個人会員	
金融	興産信用金庫	その他	(株)i-tec24	飯塚 克治	
	西武信用金庫 神田支店		(株)イサミヤ	池 俊 郎	
	(株)東京都民銀行 神田支店		ウェブリオ(株)	浦 田 泉	
	(株)東日本銀行 飯田橋支店		(有)エイアイ企画	大 塚 茂	
	みずほ信託銀行(株)		(株)エス・エー・ピー	加 藤 武 夫	
建築土木	(株)エコ・24		管理費インシュア(株)	小 池 譲 二	
	(株)久保工		(株)弘周舎	小 林 勝 彦	
	清水建設(株)		ゴージャージャパン(株)	小 林 誠	
	(株)竹中工務店		(株)こどもの館	新 崎 光 正	
	(株)ナカノフドー建設		(株)コンベンションリンケージ	須 藤 昭 雄	
建設設計	(株)アズ・リノベテック		(株)サガワ	武 ち ひ ろ	
	(株)共立エステート		鈴新(株)	立 山 光 昭	
	(株)楠山設計		(株)TALO都市企画	塚 越 茂	
	(一社)改修設計センター		(株)テンプルボーイ	戸 田 豊 重	
	(一社)東京都建築士事務所協会千代田支部		東洋美術印刷(株)	二 木 憲 一	
	パシフィックコンサルタンツ(株)	(株)巴商会	早 川 平 典		
緑花・環境	日産緑化(株)	(株)日精ピーアール	堀 部 剛 正		
広告代理	(株)フィレール	(株)ネットビジョン	幕 亮 二		
不動産	エヌティティ都市開発(株)	ハネクトーン早川(株)	三 浦 博 子		
	住友不動産(株)	(株)フォトロン	宮 園 耕 二		
	プラットフォームサービス(株)	フジ産業(株)	三 輪 瑛 子		
	三井不動産(株)	富士ゼロックス(株)	若 林 尚 夫		
	三菱地所(株)	フジマイクロ(株)	他7名		
	安田不動産(株)	(一社)マンション管理組合支援センター			
IT関連	(株)オープントーン	三喜産業(株)			
	(株)メディアリンク	ヨシモトポール(株)			
コンサルタント	NPO都市住宅とまちづくり研究会				
	(株)パシフィック総合開発研究所				

(法人:54 個人:30 計:84)